

雪印メグミルク(株)
酪 農 部
酪農総合研究所

第 72 回日本酪農研究会 開催のご報告

日本酪農青年研究連盟（酪青研：檜尾康知委員長）主催の第 72 回日本酪農研究会が、2021 年 11 月 16 日～17 日の 3 日間、プレミアホテル-TSUBAKI-札幌にて、新型コロナウイルス感染症に十分配慮のうえ、全国から 160 名の参加者を集めて開催されました。来賓として、農林水産省や北海道庁をはじめとする関係行政・団体等のご臨席を賜りました。

主催者挨拶をした檜尾委員長は、「大会の開催は、皆様方の酪青研に対する思いが形になったものであると考えます。今回の大会が、日本酪農青年研究連盟の“勇気をもって踏み出した”新しい第一歩となり、困難な状況の中で未来を切り開く努力を続ける盟友の後押しとなることを祈念いたします。」と挨拶しました。

当社グループを代表して西尾啓治代表取締役社長（当時）は、「黒澤酉蔵翁はかつて、酪農によって、人々の健康と社会の繁栄を実現する『酪農救国』を提唱しました。この『酪農救国』の精神は、我々が取り組んでいる持続可能な社会の実現と、乳（ミルク）を通じて人々の健康に貢献するという、雪印メグミルクグループの使命に通ずるところであります。当社グループは、先達の“酪農への思い”を受け継ぎ、時代をしっかりと見据えて、この変わらぬ使命を果たしてまいります。」と挨拶しました。

研究会では、全国から選抜された酪農家 6 名による経営発表と 6 名の意見メッセージ発表が行われ、経営発表の中から「自給飼料でゆとりある持続的な酪農目指して」と題して発表した北海道協議会南部十勝連盟の村崎隆一さんが最優秀賞（黒澤賞）・農林水産大臣賞に輝きました。

経営発表の講評において、審査委員長の鶴川洋樹先生（秋田県立大学 教授）は、「酪農経営には様々な課題がありますが、その対策やヒントも酪農経営の現場にあることを今回の事例発表でも確認できました。本日発表された経営技術に学び、それぞれの経営資源を活かして、経営の継続と発展を目指し、地域の仲間とともに、引き続き経営改善に努力されることを期待します。」と述べられました。

発表会後は、～2021 年公開映画「ヒノマルソウル」主人公モデル～感動のスキージャンプとその舞台裏と題して、長野オリンピックのスキージャンプ団体の金メダルにテストジャンパーと貢献した、雪印メグミルク（株）北陸支店（元スキージャンプ部）の西方仁也氏の講演、その後、北海道本部副本部長の齋藤浩哉（長野オリンピック金メダリスト）、酪農と乳の歴史館館長の菅谷正行を交えてのトークショーが行われました。

新型コロナウイルス感染症のため様々な制約のある大会ではありましたが、2 年ぶりの実開催での大会となり、全国の酪農家の交流、情報交換に大いに貢献する大会となりました。

以 上